

中長期目標 (学校ビジョン)	校訓である「共生」「自立」「感謝」を基調とし、「暖かき人間関係」「高い志と生き抜く力」「自己への挑戦」を大切に社会に貢献出来る人材の育成を目指す。
-------------------	---

今年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 個々に応じた基礎学力の向上・資格の取得 規律ある生活態度の育成・徹底 望ましい人間関係の構築 キャリア教育の推進と充実・早期の進路決定
----------	--

評価基準
 A：ほぼ達成 (90%程度) B：概ね達成 (70%程度) C：まだ不十分 (50%程度) D：方策の見直し (30%以下)

評価項目	評価の具体項目	年度当初			評価結果(10月)			最終評価		
		現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方法	評価	目標の達成状況	次年度引継ぎ事項等
個々に応じた基礎学力の向上・資格取得	<ul style="list-style-type: none"> 個々に応じた学習意欲の喚起 授業の質の更なる向上 資格取得率の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校傾向等により学習の空白時間を有する生徒も多く、基礎学力の定着(主に英語・数学)が充分とはいえない。 生徒を引き付ける授業の工夫が必要。 全校生徒が受検する検定試験(漢字検定33%・パソコン検定38%)の合格率である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学ぶこと、分かることの喜びを知り、意欲的・自立的・計画的な学習展開が図れる。 生徒の情報共有し、授業の質向上のために、職員の自己研鑽が日々行われる。 漢字検定およびパソコン検定3級以下の合格率が50%以上、かつ各種検定の上位級(準2級以上)の合格者数を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒にとって分かりやすく魅力ある授業づくりに努め、基礎学力の向上を図る。数学は習熟度別の時間を設け自力で解けるレベルからチャレンジし、苦手な分野を克服し、自信をつける。 自己研鑽の評価として様々な資格に挑戦する。情報共有をすることで授業に対する職員の意識を高め、授業の質を高める。 資格を取得する意義を浸透させ、意欲を高め、反復練習(表による見える化)によって更に合格率を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学は習熟度別のクラスを設けたことで、個々の学力に合わせた学習ができていく。 選択授業において教師のリードのもと、コンテストやイベントステージへのチャレンジができていく。(特進部：昭和シェル石油「環境フォトコンテスト」金賞受賞、よさこい部：「打吹まつりwasso」特別賞受賞) 生徒によって資格取得に対する意欲の差がある。また、上位級の受験者が増えてきたため合格が難しくなっている。(漢字検定3級以下合格率44%・準2級合格1名、パソコン検定3級以下合格率50%・2級合格1名) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒同士で教え合う時間を作り、アウトプットさせることで実力の定着を図っていく。 引き続き生徒の情報共有をしていく。そして興味関心のある情報を教材として生徒を引き付ける授業をしていく。 上位級の合格率を高めるために、早朝や放課後、家庭での学習時間の確保を伝えていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 後期試験にむけて、クラス全体で計画的に取り組みさせることで学習意欲が高まり、結果も出すことができた。 コンテストやイベントへのチャレンジの結果、生徒が他の分野でも自信を持つことができた。 漢字検定3級以下合格率36%、準1級1名、2級1名、準2級2名合格。(第3回希望受験者昨年度8名→今年度17名) パソコン検定3級以下合格率42%、2級1名、準2級2名合格。 	<ul style="list-style-type: none"> 入学時から、試験及び検定のスケジュールを念入りに確認し、いつ何をすべきかを理解させる。 担当教科だけでなく、教科横断的な視点で、教員同士連携を取り、授業にいかす。 過去の合格者数を掲示し、検定試験に向けての意欲を高める。
規律ある生活態度の育成・徹底	<ul style="list-style-type: none"> 学校の規律やルールへの遵守、公共の場でのマナー向上 積極的な挨拶の定着を図る。 清掃活動の習慣化校舎内の清掃等、環境整備が十分に行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみを整えられない生徒・時間を守れない生徒が一部見られる。 自発的に挨拶できる生徒が多くなく、習慣化していない。 掃除を人任せにする生徒が一部見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会で通用する身だしなみと生活習慣が身に付いている。 挨拶をする習慣が身に付いている。 自らが率先し毎日清掃活動を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 月に一度、服装検査を実施することで「身だしなみ」の確認を行う。登下校時、毎日職員が由良駅まで行き、公共施設でのマナーの向上を図っていく。 職員から、名前を付けて挨拶を元気づけることにより円滑なコミュニケーションを図る。 日ごろの清掃活動の取り組み指導、それに合わせて施設やモノを大切に使用する意識を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 上級生を中心に服装も整ってきたが、服装検査を通らない生徒が固定化されてきた。 自発的な挨拶は少ないが、会釈や返しの挨拶はできつつある。 率先して清掃活動に取り組める生徒が増えてきた。一部ではあるが机上に落書きをする生徒がある。 	C	<ul style="list-style-type: none"> より具体的に基準を伝えていくことで「身だしなみ」を整えていく。 全校集会、クラスHRにおいて声を出しての挨拶指導をしていく。 学校の物は公共物であることを伝え、学校全体を居心地の良い場所としていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ルールを守りにくい生徒は数人だが固定化されている。 集会やクラスでの挨拶は向上している。が、駅や玄関先での挨拶は個人差が大きい。 清掃場所を固定化することで、人任せにする生徒も減った。 	<ul style="list-style-type: none"> 固定化された生徒について服装検査日に関わらず、指導を継続する。 個別に名前を呼んで継続的に挨拶をする。 協力して清掃することが難しい生徒は、掃除場所を固定化し責任を持ってできるような環境を作る。
望ましい人間関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> 信頼し合える関係作り クラスでの仲間作り 	<ul style="list-style-type: none"> 他者を思いやる気持ちが見られない生徒が一部見られる。 コミュニケーション能力・語彙力の低い生徒がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒同士、生徒・保護者と職員同士が認め合い何でも話せる雰囲気がある。 周囲を思いやる言葉使いができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃の会話から否定しないことを心がけ、お互いがお互いのことを認め合える雰囲気を作る。また、アンケートや電話などで、定期的な保護者との情報交換に務める。 生徒への目配りと授業担任との情報交換により生徒の状況を把握する。また、生活や授業の中でコミュニケーションについて伝えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎朝の職員会までに生徒の情報共有を行っている。気になる情報を早い段階で共有することで大きなトラブルを防いでいる。 問題ある場合には担任と授業担当で情報交換ができていく。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 年度末に保護者へのアンケートを行う。 語彙力の低い生徒には言葉の使い方を具体的に伝えていき、状況を職員でも共有していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 1月に保護者へのアンケートを実施。90%の保護者が学校に対し「相談できる」「理解してくれている」と解答。 言葉が気になる生徒は個別に指導することで、大きなトラブルなく過ごすことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートを継続する。配布時期を早め、回収率も上げていく。また「ソフトなタペ」を継続し、保護者との連携を密にする。 言葉使いは概ねよくなっている。さらに円滑なコミュニケーションが取れるよう努めていく。
キャリア教育充実・早期進路決定	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い視野・職業観の更なる育成 進路希望と適性に対する自己理解の更なる促進 進路実現に向けての早目の具体的な行動化 ボランティア活動や地域交流活動への参加を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 視野が狭く、偏っていると同時に職業に関する知識が少ない。 自己理解が乏しく、なりたい自分が見えていない生徒が多く見られる。 漠然とした目標のため具体的な行動を起こせていない生徒がみられる。 実力と目標とのギャップがみられる。 地域ボランティアへ積極的に参加する生徒が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が幅広い選択肢の中から進路目標を見つけ、その実現のために日々努力している。 自己を理解し、理想の自分を見つけている。 自らの進路について真剣に考えることで、具体的な行動を起こしている。 自らが率先してボランティア活動や地域貢献する姿勢がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 職業人講話を実施することにより社会人としてのマナーの習得や職業理解を深める、と同時に視野を広げる。出前授業・学校見学・ボランティア体験を実施することにより進路に関する選択肢の幅を広げる。 アルバイトをすることにより、職業を知り、「働く」ということを経験していく。 ハローワークと連携して、定期的に進路面談を実施することにより、自己理解を促し「なりたい自分」を見つけていく。 就職希望者は職場見学・体験を実施する。就職セミナー等にも参加し、就職に関する学習の機会(面接練習・履歴書の書き方・求人表の見方等)を増やし、早目の行動を意識させる。また、進学希望者は模擬試験の実施、興味のある学校へのオープンキャンパス等に積極的に参加する。放課後に中央予備校とタイアップし学力アップを図る。 進路とからめてボランティア活動の有意性・有用性を伝えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学見学、老人福祉施設・子ども園交流、職業人講話により視野を広げることができている。 就職希望の生徒を中心にアルバイトの経験ができていく。 就職希望者はハローワークと連携して職場見学を実施。就職セミナーにも積極的に参加し、内定にも結び付けていく。 就職希望者は職場見学・体験を実施する。就職セミナー等にも参加し、就職に関する学習の機会(面接練習・履歴書の書き方・求人表の見方等)を増やし、早目の行動を意識させる。また、進学希望者は模擬試験の実施、興味のある学校へのオープンキャンパス等に積極的に参加する。放課後に中央予備校とタイアップし学力アップを図る。 地域イベント(2回)、高齢者施設(5回)、地域施設(2回)でのボランティアを実施。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今後も職業人講話の回数を重ね、さらに広い視野を持てるようにする。 学校とアルバイトの優先順位が反対にならないよう出席不足の生徒はバイトの休止を促す。 進路未定の生徒には選択肢を提示し希望の進路を見つけられるようサポートしていく。 ボランティア内容によって希望する生徒は違うが、率先してボランティアを行う生徒が増えてきたので、今後はその輪を大きくしていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 職業人講話、老人福祉施設訪問の継続ができた。 必要な出席時数を満たしていない生徒はバイトを休止させ、許可を出さないことで、バイトを優先する生徒はいなくなった。 3年生進路決定21/24(87.5%)未定の生徒はハローワークと連携を取りながら卒業後も必要なサポートをしていく。 ボランティアの種類によって参加する生徒は異なるが、継続して参加する生徒が増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校見学、出前授業、職業人講話の提供。生徒にも希望職種のアンケートを実施する。 進路研究の時間を増やし、自己理解の時間を意図的に作る。 いつまでにならなっていたいのかのイメージを具体的に持たせ、計画的に動けるようにする。(オープンキャンパス、資料請求、求人検索、面談練習等) ボランティア活動の啓発、案内等情報提供することで生徒の興味関心の幅を広げる。